

令和6年度大府市犯罪のないまちづくり推進会議 議事録

開催日時	令和7年2月17日(月) 午後2時00分～午後3時5分
開催場所	大府市役所 会議室 001、002
出席委員	委員：田中賢：日本大学教授、福田悠子：東海警察署生活安全係、石田敏之：東海警察署大府幹部交番所長、中澤久美子：大府市小中学校PTA連絡協議会代表、花井静枝：大府市老人クラブ連合会代表、芳賀鉄男：東海大府少年補導委員代表、石原佳子：東海大府事業所防犯協会大府支部代表、深谷多恵子：大府商工会議所代表、竹内清道：大規模小売店代表、神谷まち子：大府市地域婦人団体連絡協議会代表、大川博子：自主防犯ボランティア代表、中庄とみえ：公募委員 宮腰理加代理：学生代表
欠席委員	蟹江敏広：大府市小中学校校長会代表
事務局	近藤真一：市民協働部長、近藤宏幸：危機管理課長、喜多村祥久：危機管理課生活安全係長、宇佐見裕哉：危機管理課生活安全係主任、津坂拓男：危機管理課生活安全係地域安全専門員
傍聴人	なし
次第	1 報告事項 (1) 大府市の犯罪発生状況について 東海警察署生活安全係 福田 悠子 氏 (2) 令和6年度大府市犯罪のないまちづくり事業進捗状況について 2 協議事項 令和7年度大府市犯罪のないまちづくり事業計画書(案)について 3 防犯対策事例の紹介 日本大学 教授 田中 賢 氏

## 1 報告事項

### (1) 大府市の犯罪発生状況について

東海警察署生活安全係 福田 悠子 氏

愛知県内では、令和6年中に51,025件の刑法犯を認知し、昨年と比較して4,000件以上増加し、前年比9%の増加であった。

東海市と大府市を管轄している東海警察署管内については、全体では令和6年中に1,075件の刑法犯を認知し、昨年と比較して156件増加し、前年比17%の増加であった。県の増加率9%と比較して、高い増加率であった。

東海警察署の犯罪が増加した理由は、東海市が大幅に増加したことが要因である。なかでも、自動車盗、自転車盗、特殊詐欺、部品ねらい、万引きなどが増加した。大府市の状況は、令和6年中に411件の刑法犯を認知し、前年比20件の減少であった。内訳だが、侵入盗は27件で、前年比18件の減少となった。自動車関連窃盗は、自動車盗が13件で、昨年と同じ件数であった。被害多発車種である、プラドを含むランクル、アルファード、レクサス、プリウスなどが多く盗まれた。部品ねらいは29件で、前年比11件の大幅な増加となった。昨年2月、車のナンバープレートが集中して窃取されたことが要因の一つになっている。

最後に特殊詐欺について、東海警察署管内では、令和6年中に61件認知した。そのうち、大府市は19件で前年比4件の減少となった。しかし、被害金額が約1億3,70

0万円となり、大幅に増加している。被害件数19件で1億3,700万円という被害金額は、残念ながら県下ワースト1であった。

特殊詐欺で一番多かった手口は、オレオレ詐欺で、警察官騙りや、昔からある息子を騙って「女性を妊娠させてしまった。和解金が必要。」という被害もあった。

今年に入ってから、すでに特殊詐欺の被害は発生している。犯人と会話をしない対策として、「在宅時も留守番電話設定にすること」「プラスから始まる国際電話からの詐欺電話も多いため、国際電話の利用休止の申込みの推奨」「防犯対策機能付き電話機の推奨」など、引き続き広報啓発活動を進めていきたい。

(2) 令和6年度大府市犯罪のないまちづくり事業進捗状況について  
事務局より概要を説明。

(委員) 市が設置する防犯カメラに、おぶちゃんのイラスト付き表示ステッカーを活用しているとあるが、市内にある販売店等でも使用できるか。

(事務局) 市の公共施設において使用しており、一般向けに配布していない。

(委員) 公共施設以外にも活用できると良いと思う。

(事務局) おぶちゃんのイラスト付き表示ステッカーではないが、各地区では、看板のようなもので「防犯カメラ設置中」と表示している。

## 2 協議事項

令和7年度大府市犯罪のないまちづくり事業計画書(案)について  
事務局から概要を説明。

(委員) 地域安全推進員による見守り立哨活動を毎月1週間実施しているとあるが、決まった週で実施しているのか。また、立哨活動中に大きな事故が発生したことはあるか。

(事務局) 毎月1週間の見守り立哨活動は、何週目と決めていないが、年度初めや長期の休み明けなど、効果的なタイミングで実施をしている。立哨中の事故は今のところ報告はない。今後も引き続き児童の安全を確保できるよう立哨活動を実施していく。

(委員) 防犯カメラの設置状況について、大府市は近隣市町と比較して多くの防犯カメラを設置していると説明を受けたが、比較した近隣市町はどこか。設置台数についても、現在の台数が妥当であると考えているか。

(事務局) 比較対象は県内の全市町村で、令和5年度の調査では、防犯カメラの設置台数は、県内の全市町村の中で10番以内であった。設置については、県内の状況を踏まえて、計画的に進めているものと考えている。

- (委員) 大府市は道路状況がよいため、犯罪が起きやすい状況にある。安心安全を市民に享受できるよう防犯カメラの設置をさらに推進してほしい。
- (事務局) 自治区や自治会などの自主防犯団体を対象とする防犯カメラの購入費補助する制度がある。補助制度も活用してもらい、設置を推進していく。
- (委員) おおぶ防犯ボランティア養成講座について、全4回の内容を教えてほしい。22名の参加は少ないと感じるが、どれくらいの人数を狙っているのか。
- (事務局) 1回目が防犯活動の基礎や心構えという内容での講義、2回目が実際に地域にででの防犯診断、3回目が防犯活動専門チーム「のぞみ」による特殊詐欺寸劇、4回目が警察官同乗による防犯パトロールという内容になっている。受講した22名には警察と連携し実践的な防犯対策を学んでもらっている。具体的な受講人数の目標設定はしていないが、引き続き、学んだ内容を地域に活かしてもらえる人材を育成していきたい。
- (委員) おおぶ防犯ボランティア養成講座の受講者は、一般の方か、それとも自治区などの自主防犯団体を対象としているのか教えてほしい。
- (事務局) 一般の方や年代を問わず幅広く募集をしており、自治区でも呼びかけていただいている。
- (委員) 市が設置している防犯カメラ以外の設置状況についても、知っておく必要があるのではないか。
- (事務局) 現状としては、市が管理する防犯カメラ以外の設置状況については把握していない。
- (委員) 安心安全を守るうえで、行政の力だけでは限界はある。市内の防犯カメラの設置状況も可能であれば把握すると良いと思う。
- (事務局) 防犯カメラも防犯対策として必要と考えるが、自己防衛に努めていただけるよう防犯対策用具の補助制度を設けている。防犯砂利や防犯フィルム、常時録画のドライブレコーダーも補助制度の対象としている。行政と市民が互いに防犯対策に力をいれていくことで、安心安全なまちづくりにつながると考えている。

### 3 防犯対策事例の紹介

日本大学 教授 田中 賢 氏

大府市の犯罪のないまちづくり基本計画では、重点施策が31項目あるため、すべてに参加することは難しい。そのため自分たちがどこに関わり、参加できるかを考えていきたいと思う。

防犯のまちづくりにかかわる21のアクションということで、他の有識者とともに、

21 項目の防犯ピクトを作成した。個人や家族、地域、町ぐるみで取り組むものなど様々なフェーズがあり、それぞれが関連しあって防犯ピクトは成り立っている。

防犯カメラは防犯対策として効果的だが、あくまで防犯対策の一部である。大府市役所の近くに地下道があるが、児童の絵が描かれていて整備されている。このように美しく整備されていると、住民の関心の目がいき、関心がいかない道路や場所があると、自然と荒廃して犯罪がおきやすくなる。壁をきれいにしたり、楽しげな絵を描いたりすることは、一見防犯に関係がないように感じるが、効果的な防犯対策となる。

防犯という監視するというイメージがあるが、監視だけではなく、見守りの目を持つことが大切である。見守りの目を持つことで、近所に住む高齢者やこどもの、いつもと違った変化に気づくことができるかもしれない。犬の散歩をしながらなど、何かをしながら気軽に見守り活動をするのが防犯対策になる。ながら見守りが何重にも重ねることで、より効果が上がるため、ぜひ気軽な気持ちで取り組んでいただきたい。

次に、市役所、警察、市民、学校などが抱える課題や関係性を、防犯のまちづくりイシューマップに落とし込んだものを紹介する。防犯のまちづくりの課題は、様々な関係性を持っており、それらを1つずつ読み解くことで「どこに障壁があるのか」、「何が原因で何が起こるのか」を考えることが重要となる。

例えば、大府市の特徴の1つとして「立地の良さ、交通の利便性」があるが、これにより「犯罪者が来やすくなる」等のマイナス点が出てくる。また、自転車の盗難などのふとしたはずみの犯罪である「機会犯罪」については、行政が今まで取り組んできたような啓発や、年齢に応じた教育が対策として大事になってくる。

今後、海外にルーツを持つ子どもへの対応について考える必要がある。日本語が不自由な子どもの中退率の高さや、中退後の就職問題などが課題としてあるが、解決するためには、いかに学校に繋ぎとめ、学ぶことの楽しさを教えて仲間を増やすことが大切である。頼ることができる相手がいないと、不良行為や非行、最終的に犯罪に手を染めてしまうことに繋がる。

防犯を単にパトロールをするなど、一つに限るのではなく、幅を広げて考えることが重要である。過度に責任感を持つのではなく、お互いに気軽に見守れる地域づくりを進めていくことが良いと思う。

以上